

ウニによる養殖イタヤガイの付着生物の防除(抄録)*

勢村 均

イタヤガイ天然採苗時に混獲されるバフン稚ウニを用いてイタヤガイへの付着生物防除試験を行った。

その結果、稚ウニを混養した試験区ではいずれも効果がみられたが、特に7-9月では稚ウニ=10個体以上、9-11月では稚ウニ=20個体以上(いずれもイタヤ稚貝50個体に対して)混養した試験区でその効果が著しかった。

また、イタヤガイの生残率は7-9月ではどの試験区もかわらなかったが、9-11月では稚ウニを混養した試験区で若干低下した。

今後稚ウニ混養の場合のイタヤ稚貝の成長、生残をよりくわしく把握する必要がある。

表 1 養殖イタヤガイへの付着生物重量・割合
およびイタヤガイ・稚ウニの生残率

	測定 月日	試験区分 (ウニ個体数/イタヤ個体数)				
		0/50	5/50	10/50	20/50	40/50
付着生物平均重量	9/20	0.31	0.02	0.00	0.01	0.08
(g/イタヤ1個体)	11/20	4.29	1.31	1.13	0.05	0.15
付着生物平均重量 イタヤ平均体重 $\times 100$ (%)	9/20	6.7	0.6	0.0	0.1	1.2
	11/20	29.2	12.1	8.0	0.5	1.3
イタヤ生残率 (%)	9/20	96.0	92.0	96.0	98.0	96.0
	11/20	90.0	80.0	68.0	70.0	78.0
稚ウニ生残率 (%)	9/20	-	20.0	70.0	100.0	93.0
	11/20	-	80.0	100.0	100.0	90.0

* 「付着生物研究」第2巻1号に発表